

# 【商業科・事務情報科】 3年次 【選択】科目「ビジネス情報管理」授業のシラバス

## 1 概要

教科名	商業	科目名	ビジネス情報管理	単位数(コマ数)	4(210)
科目の目標	情報通信ネットワークやビジネス情報システムに関する知識と技術を習得させ、ビジネスの諸活動において情報を管理し、共有することの意義や必要性について理解させるとともに、業務の合理化を積極的に推進する能力と態度を育てる。				
教科書(出版社)	ビジネス情報管理(実教出版)	副教材(出版社)	(授業開始後に教科担任より指示)		

## 2 学習の方法

### (1) 予習について

教科担当の先生の指示に従ってください。

### (2) 授業について

毎時間の授業を大切に集中して取り組んでください。疑問点は遠慮なく質問してください。

教科担当の先生の指示に従い、授業で使用するものを確認してください。もし忘れた場合は、授業が始まる前に教科担当の先生に申し出てください。この授業で使うファイルは「プラスチックの青」です。

小テストや答練の時間も多く取る予定です。

### (3) 復習について

問題演習や答練については、必ず解き直し復習(家庭学習)を行ってください。

日検受験希望者がいる場合は、放課後や休みにパソコン教室の使用を許可し開放することができますので、自ら進んで復習に取り組んでください。

### 〈学習アドバイス〉

1年次「情報処理」2年次「ビジネス情報」の学習内容を元に、情報システムの活用、業務の合理化、システム開発、ネットワーク構築など、より専門的な学習を行います。

全員で全商情報処理検定ビジネス情報部門1級に挑戦します。日々の積み重ねが結果につながりますので、毎時間の授業を大切にしてください。

日検情報処理技能検定「表計算」「データベース」やJ検(情報検定)「情報システム試験」「情報活用試験」なども取り上げますので、積極的にチャレンジしてください。

## 3 評価について

### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
① 関心・意欲・態度	ビジネスの諸活動において、情報システムを活用し、将来、業務の合理化を主体的、積極的に言い、職場のリーダーとなる意欲と態度を持っている。
② 思考・判断・表現	適切な分析手法を用いて、業務の合理化を行うため、要求に応じた適切なシステムを開発するなどの思考力・判断力・表現力を身につけている。
③ 技能	ビジネスにおける情報活用に必要な情報の分析、システムの開発、ネットワークの構築などの技能を身につけている。
④ 知識・理解	ビジネスの諸活動に関する情報システムの意義や役割を理解するとともに、ビジネスにおける情報システムの活用を実践するために必要な知識を身につけている。

### (2) 評価の方法(以下観点①～④は「(1) 評価の観点」と対応する)

観 点	評価材料		定期考査・確認テスト	授業態度	小テスト	ノート プリント	課題
	割合						
① 関心・意欲・態度	10%	△	ネットワーク構築実習も予定しています。	○		○	◎
② 思考・判断・表現	25%	◎	全商情報処理検定ビジネス情報部門1級レベル		○	○	
③ 技能	40%	◎	全商情報処理検定ビジネス情報部門1級レベル		○	○	○
④ 知識・理解	25%	◎	全商情報処理検定ビジネス情報部門1級レベル		○	○	

### 〈担当者からのメッセージ〉

●卒業後、社会の即戦力になれるよう、情報システムに関する高度なスキルを身に付けてください。

●IPA「ITパスポート」「基本情報技術者試験」「情報セキュリティマネジメント試験」にも繋がる授業内容です。

**【商業科・事務情報科】 3年次 【選択】科目「ビジネス情報管理」授業のシラバス**

**4 授業計画**

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考查等
前期						
4	第1章 ビジネスと情報システム 第1節 ビジネスと情報の管理 第2節 情報システムと業務の合理化	18	1 ビジネスと情報共有 2 ビジネスとICT 1 情報システムと経営マネジメント 2 業務の合理化とシステムの実際	① ② ④	ビジネスにおける情報の活用と共有の重要性、様々な情報システムの種類や役割について自ら学びながら理解することができる。/ネットワーク社会における新しいビジネス形態の理解やその課題について主体的に学ぶことができる。/ビジネスにおける情報共有の重要性について理解を深め、自分から進んで調査することができる。/経営やシステムを改善するソリューションビジネスや、業界横断的な管理を行うための情報システムについて自ら学びながら理解することができる。/ビジネスにおける情報共有の重要性について話し、意見を表明できる。/情報システムを用いて、業務の効率化や業務の改善と利用の仕方について考え、業務に活用できる情報システムを判断できる。/ネットワーク社会における新しいビジネス形態の理解やその課題について主体的に考え、判断し発表できる。/ビジネスと情報システムの関係など、経営やシステムに関する基本的な知識を身につける。/ビジネスにおける情報共有の重要性と情報共有を促進するシステムに関する知識を身につける。/企業において利用されているFA、SCM、CRM、ERPなどの情報システムを学び、業務の改善やシステムの実践についての基本的な知識を身につける。	前期中間考查
5	第2章 情報通信ネットワークの構築と運用管理 第1節 情報通信ネットワークのしくみと通信方法	24	1 インターネットとWAN 2 LANのアクセス制御方式 3 通信プロトコル	① ② ③	ネットワークの構築について関心をもち、ネットワーク構築に必要なハードウェアソフトウェアについての学習や実際に構築し動作確認することができる。/ネットワークの管理やトラブルの発生、セキュリティ管理について関心をもち、自分から進んで知識や技術を身につけることができる。/タブレットやスマートフォンなどのデバイスも、ビジネスにどのように活用しているか理解でき、積極的に情報を収集し、自分から進んで発表することができる。/ネットワーク構築に必要なハードウェアソフトウェアを適切に選択できる。/ネットワークの性能や信頼性を高め、適切な判断に基づくデータの選択やセキュリティの管理ができる。/ネットワークを改善するためのネットワークデバイスやハードウェアを適切に選択し、適切なネットワークの構築を判断できる。/実際に、現状を分析し、ネットワークをどのように利用するなどの重要事項を整理し、まとめることができる。/業界横断的なネットワークの構築をえ、積極的に業務改善や新サービスの開発を進める。	
6	第2節 ネットワーク機器	24	1 LAN間接続装置 2 インターネットへの接続	③	簡単なネットワークを構築するためのハードウェアの種類、ソフトウェアの導入などの知識を身につける。/サーバを利用した、簡単なファイル共有環境、データの保護、セキュリティの管理などができる。/ネットワークを構築するためにLAN、無線LANの構築、ネットワークアドレスの割り当てやDNSの設定ができる。/管理ツールを利用し、セキュリティポリシーに基づいたネットワークの管理ができる。/システム構築、不正アクセスに気づくことができる。/ビジネス向けデバイスやクラウドを活用する知識を身につける。/簡単なネットワークの構築と運用管理の学習を通して、適切な改善を身につける。	
7	第3節 情報通信ネットワークの設計 第4節 ハードウェアとソフトウェアの導入 第5節 運用管理	24	1 ネットワークの設計手順 2 ネットワークの導入と運用管理 1 ハードウェアの導入 2 ソフトウェアの導入 1 管理ツールやセキュリティポリシーによる運用管理 2 システム障害や不正アクセス対策	④	ネットワークの構成、必要ハードウェア、ソフトウェアとその設定など、ネットワーク構築に必要な基本的な知識を身につける。/ネットワーク構築についての基礎的な知識から、構築に必要なネットワークの設定方法、サーバの管理やセキュリティポリシーの知識を身につける。/セキュリティポリシー策定の知識を身につける。	
8	第6節 ビジネス向けデバイスの活用とクラウド 第7節 情報通信ネットワークの構築と運用管理の実習	12	1 実習1 ネットワーク構成図の作成 2 実習2 ネットワーク設定案の作成			夏季休業明け 確認テスト
9	第3章 ビジネス情報システムの開発 第1節 企業の経営戦略	24	1 経営戦略の立案 2 販売情報の分析 3 財務情報の分析	① ②	経営戦略立案するうえで必要な分析手法について関心をもち、積極的に取り組むことができる。/販売情報の分析について関心をもち、資料やソフトウェアの機能を活用して分析結果をまとめることができる。/経営戦略立案の重要性やその役割や分析手法の活用方法について自ら学びながら理解を深め、ソフトウェアの機能活用やその活用方法について積極的に学ぶことができる。/システム構築におけるプロジェクト管理の関心をもち、ソフトウェアの機能活用やその活用方法について積極的に学ぶことができる。/販売システムの種類や役割について理解を深め、業務改善や新サービスの開発を進める。	前期期末考查
後期	第2節 システム開発の手法	30	1 ソフトウェア開発モデル 2 オブジェクト指向モデル 3 プロジェクトマネジメント 4 プロジェクトコストマネジメント 5 プロジェクト品質マネジメント	③ ④	ソフトウェア開発の重要性について、積極的に学ぶことができる。/不正アクセスやコンピュータウイルスなどの脅威からビジネスの運営に及ぼす影響について積極的に理解を深めることができる。/ユーザが管理、ファイルの共有、検索など、情報を共有するための活用方法について理解を深め、自分から進んで調査することができる。/コンピュータウイルスへの感染を防ぐための対策を講ずることができる。/適切な判断に基づいてデータの選択やセキュリティの管理ができる。/実際に、現状を分析し、ネットワークをどのように利用するなどの重要事項を整理し、まとめることができる。/業界横断的なネットワークの構築をえ、積極的に業務改善や新サービスの開発を進める。	全商情報処理検定
10	第3節 システム開発の手順 第4節 ビジネス情報システムの開発演習	30	1 ウォータフォールモデルによる開発 2 プロトタイプモデルによる開発 1 表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアを連携したシステムの開発 2 ウェブサーバを利用したシステムの開発	① ②	セキュリティ管理の重要性について、積極的に学ぶことができる。/不正アクセスやコンピュータウイルスなどの脅威からビジネスの運営に及ぼす影響について積極的に理解を深めることができる。/ユーザが管理、ファイルの共有、検索など、情報を共有するための活用方法について理解を深め、自分から進んで調査することができる。/コンピュータウイルスへの感染を防ぐための対策を講ずることができる。/適切な判断に基づいてデータの選択やセキュリティの管理ができる。/実際に、現状を分析し、ネットワークをどのように利用するなどの重要事項を整理し、まとめることができる。/業界横断的なネットワークの構築をえ、積極的に業務改善や新サービスの開発を進める。	後期中間考查
11	第4章 ビジネス情報システムの課題と展望 第1節 セキュリティの管理	6	1 セキュリティ管理の必要性 2 情報を保護するための方法	③ ④	セキュリティ管理の重要性について、積極的に学ぶことができる。/不正アクセスやコンピュータウイルスなどの脅威からビジネスの運営に及ぼす影響について積極的に理解を深めることができる。/ユーザが管理、ファイルの共有、検索など、情報を共有するための活用方法について理解を深め、自分から進んで調査することができる。/コンピュータウイルスへの感染を防ぐための対策を講ずることができる。/適切な判断に基づいてデータの選択やセキュリティの管理ができる。/実際に、現状を分析し、ネットワークをどのように利用するなどの重要事項を整理し、まとめることができる。/業界横断的なネットワークの構築をえ、積極的に業務改善や新サービスの開発を進める。	
12	第2節 情報システムの課題と展望	6	1 情報システムの課題 2 情報システムの展望	④	セキュリティ管理の重要性について理解を深める。/情報を保護するための方法について、積極的な学習を進める。/ネットワーク社会の発展に伴ってシステムの実践やその課題を整理し、まとめることができる。/業界横断的なネットワークの構築をえ、積極的に業務改善や新サービスの開発を進める。/ICTの活用などによる活用方法について理解を深める。	全商情報処理検定
計		210				

※ 観点別評価①は関心・意欲・態度、②は思考・判断・表現、③は技能、④は知識・理解を表しています。  
 ※ 授業計画は進度により前後することがあります。